

吉野川環境マップ

干潟を生みだし維持している川や海そして陸地のちよっしと変化は干潟の生態系に非常に大きな影響を及ぼします。このようなことから私たちは、干潟が吉野川や周辺の生態系を含めた環境の変化をいち早く知らせてくれる「モニター」あるいは「警報装置」となるのではないかと、そんな期待を干潟に抱いています。ぜひいっしょに干潟観察を継続しておこなっていきましょう。そして、みんなの宝物である吉野川河口干潟を守り、次

へつなげる方法をみつけたいと思います。吉野川の河口に行けば、きっとわかります。ここは、長い間、人の暮らしと自然とが絶妙なバランスを保ちつづけてきたところだということを、私たちがおいしい水を飲み、空気を吸い、おたからい気持ちで豊かに暮らしている、そんな当たり前のことの有り難さや願いを思い出させてくれます。ひとりで多くの人に、吉野川河口干潟のすこやかに気がついていただけたらと思います。

第十堰で全国に名をさせた吉野川

河口から第十堰の14.5kmまで広がる汽水域は、吉野川の多様な生き物や暮らしをつないでいます。ここには、今日、失いつつある日本の河口本来の姿があり、広大な河口干潟が残されているのです。河口域の約500haは、第6回ラムサール条約締結国会議（アリスベ、1996年）で立ち上げられ

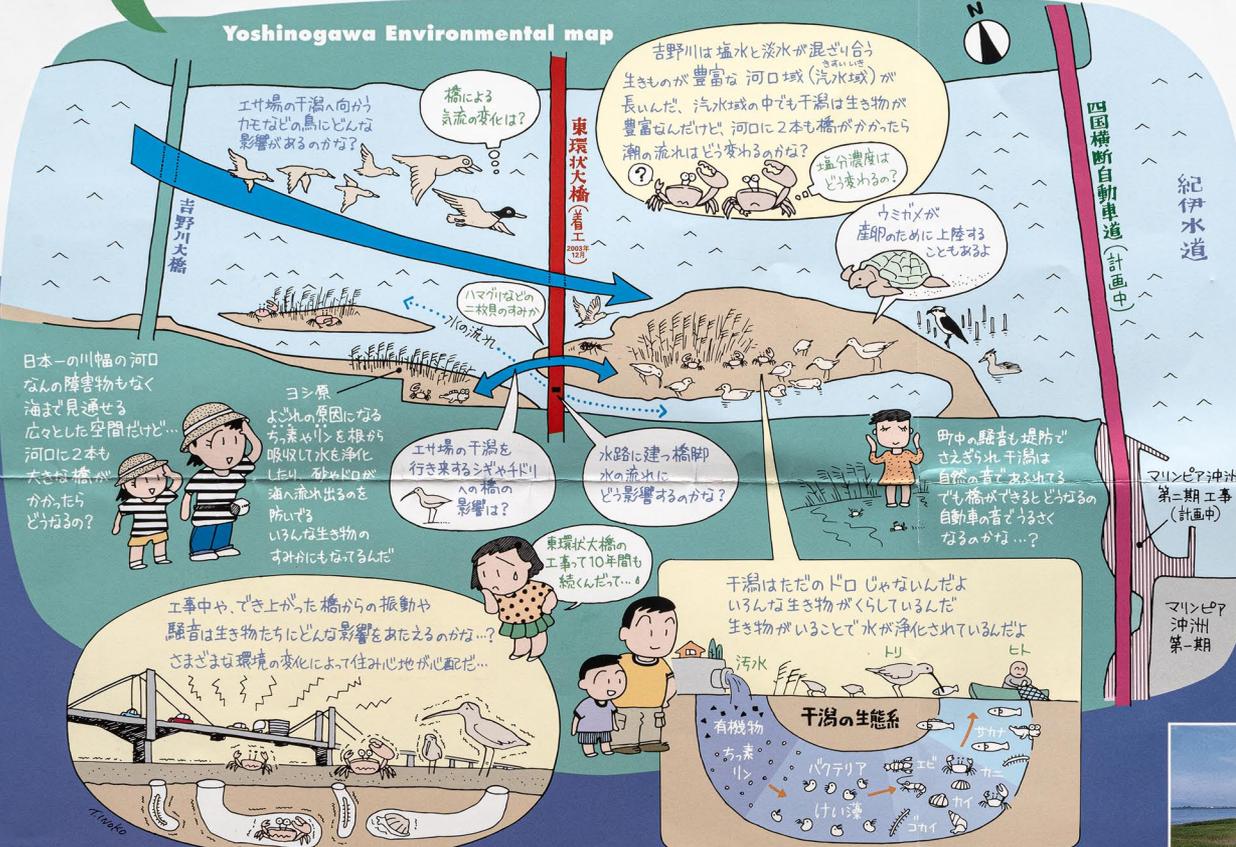


100年の歩みで広がる吉野川河口干潟を空から見た様子（2003年夏）
（写真/新橋一）

湿生生態系が保持されています。そして、バードウォッチングや散歩、子どもたちにとっては、豊富な生きものと戯れる天然のあそび場として、人々に大きな安らぎをもたらしています。県都の入口にこんなに素晴らしい河口干潟の自然をもっているところはきっと他にありません。

この河口干潟には、ダイゼン、メダイチドリ、ハマシギなど渡り鳥の飛来数が多く、これまでに160種以上の野鳥が観察され、なかでも、絶滅危惧種のカラサギ、クロツラヘラサギ、ツツガモ、ヘラシギ、カラフトアオアシギ、セイタカシギ、ズグロカモ、ホウロクシギ、コアシガンなどの飛来が記録されています。さらに、レット・データブック記載種であるシオマネキやリスハシムウなどたくさんの貴重種が豊富に生息しています。ウモレベンケイガニ、クダテガニ、ヒロクチカコガイ、ガウアイガイ、ハマグリ……今や各地の干潟から姿を消しつつある生き物がご当地に見られる場所でもあります。県庁から10分ほどの距離にあって、大きなヨソ原をともなう広大な河口干潟は、市街地のすぐそばにもかかわらず、今どき貴重な海苔やシジミを産出しており、第一級の健全な干

Yoshinogawa Environmental map



吉野川干潟を訪れる貴重な渡り鳥



- ズグロカモ カニが大好きな小さなカモです。
- カワラアオアシギ 世界で1000のみに生息する希少なカモです。
- クロツラヘラサギ しゃべりをする鳥。石や木を口に刺さります。
- カラサギ アジアの一部にしか見られない美しいカモです。
- ウモレベンケイガニ 動きがゆっくり、ヨソの家に引っついていくことが多い。
- シオマネキ 大きな甲殻類の一種です。

吉野川干潟では当たり前に見られるけれど、今や日本の干潟からはほとんど姿を消しつつある生き物



●ヨソ原 広いヨソ原をともなう干潟は全国的にも貴重。ヨソの水質の浄化を促している。

干潟の役割



- コメツキガニ カニは干潟の泥に生かされる有機物を通して生きて、産卵をします。こうやって産んだ卵から干潟の生き物は、水をきれいにするのに役立っています。
- 貝殻の中で泳ぐ種魚の群れをみつけた干潟は生き物たちのすみかといわれています。
- 中洲に広がる泥干潟 干潟の表面に堆積する有機物は水質浄化によって菌類を繁殖させ、それ自身も生き物のすみかになります。

Yoshinogawa Estuary

吉野川の干潟とひとの暮らし



- 潮干狩り
- 刺し網漁 かつては「吉野川釣り」と呼ばれていた。第一級の自然豊かな漁場だった。
- 大橋のそばに残る第一級の自然 散歩したい毎朝たくさんの人々が訪れる。
- 干潟のかんさつ会 たくさんの生き物たちを直接観察しあえる。
- 海苔の養殖 吉野川の養殖業者はだ。

●イラスト: 藤子知子さん、
●写真: 野島真由美さん、吉田利人さん、野島真由美さんにご協力いただきました。